

## ★火星がミレニアム大接近!?

ガリレオ・ガリレイが人類で初めて宇宙に望遠鏡を向けてから間もないころ、オランダのホイセンスは、火星の表面にしっかりした固定された模様や南極冠を発見しました。その赤く美しい火星がもうすぐ地球に大接近します!!

### ☆ 火星接近

火星は地球の外側をまわっているお隣の惑星です。地球はほぼ 365 日で太陽のまわりを一周するのに対し、火星はゆっくりと 687 日ほどかけて一周します。そのため軌道上で地球が火星に追いついてお互い並んで走ると、地球人から見ると火星接近となるわけです。さらに、地球の軌道はまん丸に近いけれど、火星の軌道はたまご型です。そのため、並ぶ時の地球と火星の距離は、そのときどきによって違います。もちろん近づくと距離が短いほど、火星は大きく見やすいわけです。近いところで並ぶ大接近は 15 年または 17 年ごとに起こります。このとき地球と火星の距離が最も近くなり、5500 万 km (地球と太陽の距離のやく 3.7 倍近い)なります。一方で、火星が太陽から最も離れた接近のときには、その距離は 9900 万 km になってしまいます。簡単にいえば、夏に接近するときにはその距離が小さい大接近となり、逆に冬には小接近となります。これは、たまご型の火星の軌道にとって、太陽はまん中より地球が夏に通る側に寄っているからです。そして大接近の中にも大大接近が世紀に 1,2 度(79 年に一度)起こります。今回 8/27 の火星接近は大大接近の中でも大接近、なんと紀元後最大の最接近なのです。

### ☆ 火星のもよう

火星はたいへん表面のきれいな惑星です。砂漠地方は赤っぽい色で明るく、白雲が動き、自転によって暗色の模様が移動します。火星の南半球の夏の終りに見られる大黃雲というものがあります。台風の影響だと思われており、大きいものは火星の全模様を隠してしまうほどです。

### ☆ 競いあう星たち

アンチ・タレスとタレスがその明るさを競うように並んでいます。アンチタレスはさそり座の赤い一等星アンタレス、タレスは火星を意味しています。これから火星はアンタレスから離れてどんどん地球に近付いてきます。

### ☆ どうやって見よう?

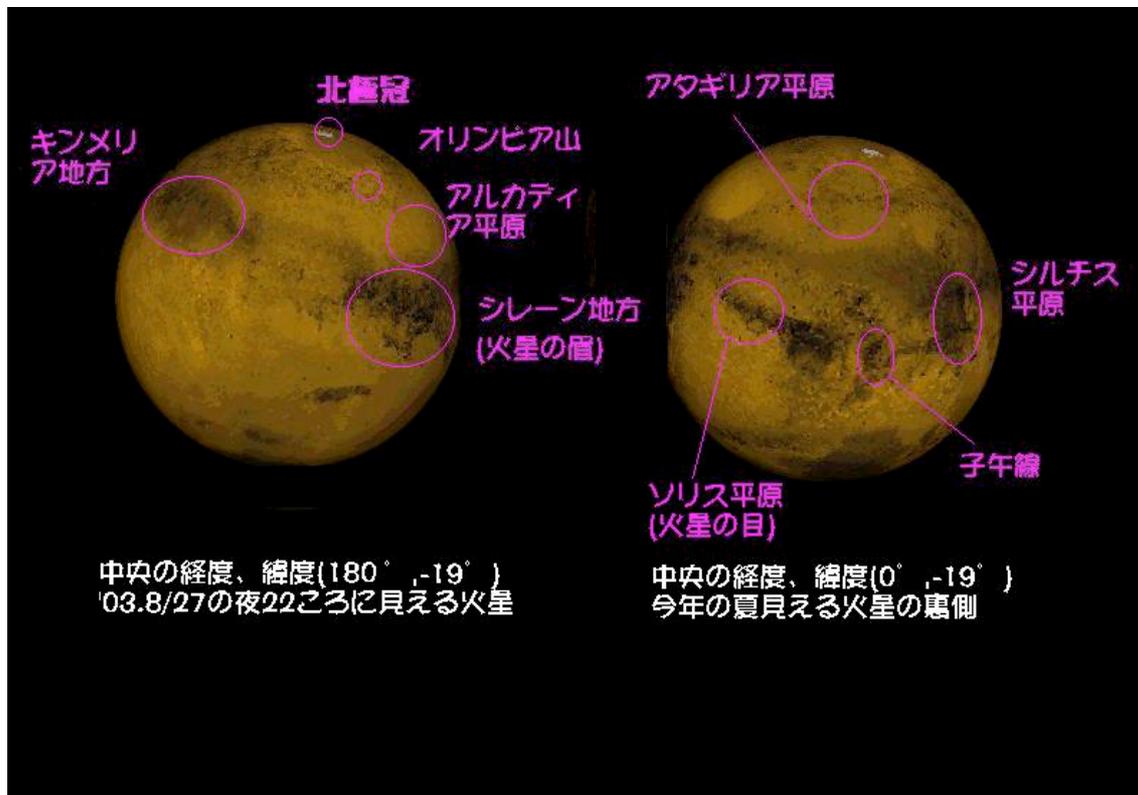
すでに 1 等級を超えている火星は、肉眼でも赤く明るく目立っている姿が見ら

れます。今回の大接近時には、火星の視直径が25秒を越え(25.11秒)ます。25秒というのは土星の本体(輪を除いて)と同じくらいの大きさで、最接近の前後には口径10cm級の望遠鏡でも、火星のいろいろな模様や南極冠は眺められるでしょう。ちょっと残念なのは、火星が見られる時間帯が少し遅いこと。初めのうちはレイトショーなのです。だんだんと火星が東から上ってくる時間は早くなり、9月になると真夜中になる前に火星が現れるようになり見やすくなります。そうなれば、各地で火星をメインにした観望会などが行われるでしょう。このチャンスをうまく利用して、大望遠鏡で火星の模様を試みるのもいいかもしれません。また、火星や火星探査などについては、会報No.10(2001.7.15発行)の星空散歩に詳しく書かれています。お持ちの方は、ぜひお読みください。

過去の火星に生命はいたのでしょうか?今の火星には?

もしかして、月の海(黒っぽい模様)が”うさぎがもちつきする”ように見えるのと同じように、火星の雲や模様がタコみたいな火星人には見えたりして。。

なんて想像しながら、今年1番の天体ショーをお楽しみください。



火星の地図。アストロアーツ社の火星シミュレータ”火星くるくる”より